

中央情報専門学校

学校関係者評価報告書 (平成29年度)

注記

本報告書は「学校自己評価報告書（平成29年度）」を元に、学校関係者評価委員会（平成30年8月8日（水）開催）での評価等を整理・追記して纏めたものである。

平成25年3月文部科学省「専修学校における学校評価ガイドライン」

評価項目一覧

1. 学校の教育目標

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

- 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか
(専門分野の特性が明確になっているか)
- 学校における職業教育の特色は何か
- 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか
- 学校の理念・目的・育成人材像は・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知がされているか
- 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか

(2) 学校運営

- 目的等に沿った運営方針が策定されているか
- 運営方針に沿った事業計画が策定されているか
- 運営組織や意思決定機能は規則等において明確化されているか、有効に機能しているか
- 人事、給与に関する規程等は整備されているか
- 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか
- 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか
- 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか
- 情報システム化等による業務の効率化が図られているか

(3) 教育活動

- 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方策などが策定されているか
- 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか
- 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか

- キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか
- 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか
- 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか
- 授業評価の実施・評価体制はあるか
- 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか
- 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか
- 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか
- 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか
- 関連分野における業界等との連携に置いて優れた教員（本務・兼務を含む）を確保するなどマネジメントが行われているか
- 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか
- 職員の能力開発のための研修等が行われているか

(4) 学修成果

- 就職率の向上が図られているか
- 資格取得率の向上が図られているか
- 退学率の低減が図られているか
- 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか
- 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか

(5) 学生支援

- 進路・就職に関する支援体制は整備されているか
- 学生相談に関する体制は整備されているか
- 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか
- 学生の健康管理を担う組織体制はあるか
- 課外活動に対する支援体制は整備されているか
- 学生の生活環境への支援は行われているか
- 保護者と適切に連携しているか
- 卒業生への支援体制はあるか
- 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか
- 高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか

(6) 教育環境

- 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか
- 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか
- 防災に対する体制は整備されているか

(7) 学生の受入れ募集

- 学生募集活動は、適正に行われているか
- 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか
- 学納金は妥当なものとなっているか

(8) 財務

- 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか
- 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか
- 財務について会計監査が適正に行われているか
- 財務情報公開の体制整備はできているか

(9) 法令等の遵守

- 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか
- 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか
- 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか
- 自己評価結果を公開しているか

(10) 社会貢献・地域貢献

- 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか
- 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか
- 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか

(11) 国際交流

- 留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行われているか
- 留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか
- 留学生の学習・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか
- 学修成果が国内外で評価される取組を行っているか

平成30年度 中央情報専門学校 学校関係者評価委員 名簿（敬称略・順不同）

氏名	所属
委員：倉橋 政道	公益財団法人日本教育公務員弘済会 埼玉支部 顧問 埼玉県立浦和高等学校 元校長
委員：木田 徳彦	一般社団法人コンピュータソフトウェア協会 理事 株式会社インフォテック・サーブ 代表取締役
委員：西村 俊郎	オフィス・プレクサス 代表 NECビッグローブ株式会社嘱託 元執行役員常務
委員：増古 恒夫	増古技術士事務所 所長 公益社団法人日本技術士会 埼玉県支部長 パシフィックシステム株式会社相談役 元代表取締役社長 公益社団法人埼玉県情報サービス産業協会 元副会長 AGS 株式会社 取締役

平成30年度 中央情報専門学校 学校評価事務局（学校評価委員会）名簿

氏名	所属
委員長：岡本比呂志	学校法人中央情報学園 理事長 中央情報専門学校 校長
委員：岩田 俊裕	中央情報専門学校 副校長
委員：松本 彰仁	学校法人中央情報学園 事務部長
委員：堀切 達也	学校法人 中央情報学園 産学連携推進部長 未来デジタル研究所長
委員：小菅 厚	学校法人 中央情報学園 学園教育開発推進部主幹
委員：斉藤 由美子	中央情報専門学校 教頭 校務運営主査
事務局：富樫 素子	中央情報専門学校 ビジネスデザイン学科学科長 産学連携・就職支援主事

「専修学校における学校評価ガイドライン」(文部科学省平成25年3月)に基づき、平成29年度の活動について、平成30年6月に以下のとおり、学校自己評価を実施した。

1. 学校の教育目標

〈教育理念〉

21世紀の日本と世界で新しいビジネスに挑む、クリエイティブで社会に役立つ人材を育成する

〈校訓〉

「自主・創造・誠実 ～学び続ける者だけが成功する～」

「自主」とは「自分の頭でものを考え、自らの行動に責任をもつ」こと

「創造」とは「自らの希望と夢を追求し、創造的に生きる」こと

「誠実」とは「人との約束を守り、誠実に生きる」こと

〈教育方針〉

「一人ひとりを大切にし、各人の能力と個性を最大限に伸ばし開花させることを教育の基本とする

授業は“親切・丁寧・わかりやすく”をモットーとする」

〈教育目標〉

1. 産業界が求める専門知識、専門スキルの修得
2. デザインを形にできる能力の育成
3. コミュニケーション能力の育成と人間的成長
4. 希望者全員の就職

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

(1) 社会の要請や時代の変化への対応

「IT分野」

最近の IT 技術の動向を観るに、様々な分野において AI（人工知能）の導入と応用の実例、及び方向性が示されている。我々は専門学校として実践的な職業訓練を実施しているところであり、アカデミックの領域における人工知能研究に関しては、その任務の領域の外であると考えているが、当校を卒業する学生達の直面する IT 技術の進歩について、その技術領域の基礎的知識を習得させることによって、将来における IT 技術の大きな発展の段階をより柔軟に受け止めることが出来得る学生を育成したいと考えている。

「ビジネス分野」

当校の学生が巣立ってゆくビジネスの世界は、その形態と方法が日々変化しているといっても良いだろう。新しいビジネスを求め、内外の環境を分析しながら考案されてゆくビジネスモデルは、一方において頼もしくもあり、他方リスクを多く抱えたものでもある。昨今、我々が捉えるべき内的環境には、国内における人的資源の不足と東京オリンピック関連の業種におけるビジネスチャンスの到来がある。当校のビジネス分野学科においては、これらの内的環境を外国人労働者の管理要員の就労機会の増加とインバウンド関連業種を中心とした就労機会の増加と捉え、それらの機会を逃さないための実践的な学習内容としたいと考えている。

(2) 教育環境の整備とシラバスの改訂・分かりやすい授業の展開

「教育環境の整備」

本年度より、学生の自主的な学習を支援するために、「MyPC」購入の支援を行っている。対象 PC は富士通株式会社のご協力と当校からの補助により、定価の半額程度の価格で学生に提供された。またこれに伴って、校内における WiFi 環境整備に着手しているところである。

また本年度より多くの教科に e-Learning コンテンツを導入した。これによって各学生毎の学習進度、理解度を客観的に測定すると共に、学習場所の制約を受けずに学生がどこに居ても学習できる環境を整備した。

「シラバスの改訂」

毎年のように学生の質が向上しているところであるが、シラバスを大きく見直し向上する学生の質に対応する教育内容を用意することが求められてきている。向上する学生の質と、それに伴う向学心及び技術的好奇心の向上に対して、本年度から AI 基礎プログラミング・Python 3 入門などの教科を追加した。また多言語教育を推進するために、C#基礎・Ruby 入門などの言語教育を強化し、実施コマ数の増加と内容の充実を図っている。また、ビジネスデザイン学科ではリーダーシップや労務管理などの業務に直結した授業を展開し、より就職を見据えた内容とした。

「分かりやすい授業の展開」

学生と教員が一体となって授業を作り上げてゆくことが当校の目標とするところであるが、本年度において導入した e-Learning コンテンツは、分かりやすい授業の展開を補完するものとして学生の授業理解を助けるものとなっている。また教員においては、春季・夏季・冬季の各学生休暇期間中に積極的に各種研修会に参加し、授業を構成する基礎力を育成する努力を継続している。これら研修会は、参加の機会を得られなかった教員に対して、教員研修会を開催することにより、知識の共有化を図っている。

(3) 学生指導の充実

当校は外国人留學生がその構成において中心であるため、日本における生活と国内法について、各クラス担任により解説を適宜行っている。また各学期の開始日に実施される全校集会においては、当校所在地所轄の新座警察署のご協力を得て、警察官による交通法規の説明及び犯罪防止のための啓蒙を行っている。

また出席率を向上することにより、シラバスが完全に実施し得る前提が整うとの考えに基づいて、一時間目に遅刻欠席している学生に対する個別指導を徹底している。出席率もさることながら、日本で就労機会を求める学生にとって必要な礼儀・作法についても教育を行うと共に、各クラス担任から、日本で働く意味や仕事に対する基本的姿勢などについても指導を行っている。

(4) 進路指導

当校は、就職率ほぼ100%の学校であり、留學生を中心とする学校としては傑出した就職実績を挙げているところである。この実績は、1年次後期に実施される「就職特別講座」において有名企業の社長・役員クラスに講話をお願いし、就職に対する意識を高めながら、2年次4月から毎週開催される「校内企業説明会及び面接会」において多くの就労機会を提供していることによると考えている。また本年度より、多くの企業を集め企業説明会を合同で実施する試みが行われている。当校学生に対して採用意欲を持つ多くの企業の参加を得て実施された。

(5) 学生募集

就職を学校のアウトプットとするならば、学生募集はインプットである。当校は、常に入学生の卒業後の進路を念頭に置きながら、技術を学習する資質や日本語能力など日本での就労に適合する学生を募集している。従って入学試験は、単に学力の測定により可否を判定するものではなく、学習意欲・学習態度・ITもしくはビジネスにおける資質を重視している。

これら入学時選考における独自の立場は、結果として高い就職実績に結び付くものであると考えている。なお実績として、入学定員を遥かに超える応募者を得て、厳しい選考の結果入学生を決定することが可能となっている。

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

①採点

適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

	評価項目	評価
a	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4
b	学校の理念、目的のもとに特色ある職業教育が行われているか	4
c	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
d	学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4
e	各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

②現状

a. 「21世紀の日本と世界で、新しいビジネスに挑む、クリエイティブで社会に役立つ人材を育成する」という教育理念の下、教育目標として以下が定められている。

1. 産業界が求める専門知識、専門スキルの修得
2. デザインを形にできる能力の育成
3. コミュニケーション能力の育成と人間的成長
4. 希望者全員の就職

b. 学習項目を「専門スキル」「専門知識」「ヒューマンスキル」に分類・設定し、学修したスキル・知識を活用し、クリエイティブなビジネス分野において活躍できる人材育成を目指している。また同時にビジネスにおいて必須事項となる自己表現・プレゼンテーション技法と併せ、社会人としてのマナーや正しい日本語の教育を実施している。

c. IT分野では進化し続けるIT技術によって変革してゆく社会を見据え、将来に渡り通用する技術とはなにかについて常に考察を続けカリキュラムを改変している。具体的には、変化の速度が急速であるIT技術において、常に最新の技術を調査し・学び続ける姿勢とその方法を授業内でも取り上げ、現状の学んだ知識を学生自らの努力により自己拡張できる教育を行っている。

ビジネス分野では常に社会の動向に目を向けて、必要とされる技術や知識を取り入れた授業により、経営者としてこれからのビジネスプランを意識した考えを持つことができる人材育成を行っている。

d. 学生に学び続けること、進化し続けることの大切さを説き、同時に様々なプログラムコンテスト並びに国家試験へ挑戦することを推奨している。また学生主体のコンテスト参加プロジェクトを教員も参加し開発をリードする試みもなされている。

e. 教育課程編成委員会において、業界委員の方々から貴重なご意見を頂戴し、動的にカリキュラムに変更を加えながら、貴重なご意見を実際の教育現場へと反映している。

③課題と改善策

- ・教育理念に基づき、優秀な学生を募集し産業界のニーズに基づく教育を実施しているが、同時に優秀な学生に相応しい高いレベルの教育の実施が望まれる。受け入れ側の教員のレベルを適正に評価し、継続的に向上させてゆく努力が必要である。
- ・対策として、IT 分野では IT 系教員の量的増加と共に、現行教員の国家試験などへの挑戦を義務付け、一定基準の国家資格を有しない教員については、一定の人事上の評価を行うなど、強制力とともにモチベーション向上を喚起する質的向上の方策が必要である。
- ・ビジネス分野では多数の企業との産学連携が行われ、学生の興味を喚起する魅力的な校外学習なども行われている。一方、ビジネス分野に対する幅広い知見を有する教員を育成していくための研修等の機会が不足していると考えられ、今後専門分野の広い知識を身に付け、ビジネス分野における実践的な教育に臨む必要があると考える。

④学校関係者評価委員会による評価

- ・「学生・保護者等に周知されているか」に関しては留学生の場合、全保護者に周知するのは現実には厳しいと思われるが、日本人学生の保護者にはパンフレットを見せるなどして当校の理念を説明し、留学生についてはしっかり理念を伝え、本人から保護者へ伝わるようにしているのであればよい。

(2) 学校運営

①採点

適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

	評価項目	評価
a	目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
b	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4
c	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
d	人事、給与に関する規程等は整備されているか	4
e	教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
f	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
g	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4
h	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

②現状

- 学校の教育理念、人事全般、授業内容、学生指導等については明文化されており、管理職による定期的な部門長会議において、目的、目標に沿った校務運営を進めている。
- 事業計画については、運営方針に基づき、毎年関係部門にて作成されており、その進捗状況は月次報告として理事長・校長に毎月提出されている。

- c. 理事会・評議員会での意思決定事項は寄附行為において定めており、主要項目については理事会・評議員会にて決定している。日常の業務運営については理事長・校長の下、副校長、教頭、学科長、各部門の主事・主任を配置し、校務運営主査の主催により校務運営会議を開催し、適切な意思決定、組織運営を行っている。
- d. 年度当初における校務分担の中で教務担当、財務担当等を配置し、上司への報告・連絡・相談、並びに稟議等により円滑かつ適切な意思決定が行われている。
- e. 人事考課制度、給与制度、就業規則等の規定は整備されている。
- f. 関係法令の遵守のみならず、社会規範の遵守についても、教職員に適時適切に指示・訓示を図っていると同時に、学生に対しても全校集会・ホームルーム等を通じて、きめ細かく指導を行っている。
- g. 本校の概要や教育活動等を広く理解していただくために「学校基本情報」や「学校関係者評価報告書」等の情報を学校ホームページにて公表している。また、各種イベントや学校情報などは個人情報保護に配慮の上、学校ホームページに掲載している。学校運営については、学園理事会、学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会などにおいて、関係者に報告、説明が行われている。
- h. 学籍管理、出席管理、成績管理についてコンピュータシステム化が行われている。当該システムは、学生の出席及び成績管理の実施並びに経費精算等の業務の効率化を図っている。現行システムは導入後一定の時間が経過し、校務・教務の現場の実態に即しきれていない問題点も生じている。今後、新たな情報システムへの移行が求められている。

③課題と改善策

- ・カリキュラム構成の変化など校務・教務環境の変化などにより、新たなパッケージソフトウェア導入が望まれており、担当部署による検討が行われている。

④学校関係者評価委員会による評価

- ・情報システム化等が行われ、業務の効率化が図られるとともに、その見直し等で業務の変化に対応しているのがよい。

(3) 教育活動

①採点

適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

	評価項目	評価
a	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方策などが策定されているか	4
b	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
c	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4

d	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
e	関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
f	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
g	授業評価の実施・評価体制はあるか	4
h	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
i	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
j	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
k	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
l	関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4
m	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
n	職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

②現状

- a. 一人ひとりを大切にし、各人の能力と個性を最大限に伸ばし開花させることを常に念頭に置き、教育課程の編成及び実施方策などを策定している。
- b. カリキュラムは、業界ニーズを踏まえた目指すべき人材育成像に従って、規定の修業年限に対応した学習時間と共に作成されている。また各修業年限における到達レベルの把握を目的として「総合力テスト」を実施している。
- c. カリキュラムは、卒業時に習得すべき「専門知識」・「専門スキル」・「ヒューマンスキル」を基礎から応用まで段階的かつ体系的に構成されている。
- d. 業界ニーズを常に意識し、カリキュラムや教育方法の工夫が毎年行われている。特に、ビジネスデザイン学科においては、就職を見据えた和食関係企業や関係協会及び団体と連携を深め、実践的な演習や工場見学などを試行し、カリキュラム開発に取り組んだ。
- e. 教育課程編成委員会に関連分野の企業・団体からの委員を迎え、カリキュラムの評価・見直しを行い、改善する作業が定期的に行われている。
- f. 職業教育は、業界が必要とするスキルに対して、「専門知識」・「専門スキル」・「ヒューマンスキル」の各分野に分類され、体系的に位置づけられている。
- g. 毎月すべての教員が相互の授業観察を行い授業評価を実施している。この結果は授業改善のために教員間において公開し情報を共有している。また、日々の授業の評価と改善に資するために、学生による授業アンケートを年3回実施している。結果を各教員にフィードバックし、教員自身の評価や気づき・振り返りに役立てた。
- h. 教育課程編成委員会において各委員の率直かつ忌憚ないご指摘を常に受けつつ改良を行っている。

- i. 成績判定会議、進級判定会議、卒業判定会議などの会議が定例的に行われ評価基準も明確である。
- j. 各資格取得に関して、カリキュラム上明確な科目を設定し授業を行っている。また、通常科目に組み込むことが時間割的に困難である科目については、特別授業を通常時間割とは別に適宜実施している。
- k. 本校が目指す実践的職業人育成のためには、実践的技術指導が可能な実務経験豊富な教員の確保は重要である。すでに外部からの実務経験豊富な教員の招聘並びに、産学連携先企業からの講師派遣により、充実した実習授業を行える教員の量的確保を目指している。また同時に在職中の専任教員における資格取得への努力が求められ、質的にも向上する必要がある。
- l. 産業界から教員を招聘し、言語教育及び開発指導を行っている。実務経験豊富な企業の技術者による授業は、学生にも好評であり実践的職業教育において今後の成果をさらに期待するところである。
- m. 各教員に必要と思われる研修などについては、積極的に参加している。また各種展示会など業界の最新動向を把握するため関連科目の教員を派遣し情報収集を行っている。さらに教員指導力の向上のため、各種団体主催の教員研修会に積極的に参加している。特にインストラクショナル・デザイン及びアクティブラーニングは、各教員の必須知識及び技能と位置付けており、すべての教員が受講している。また教員経験並びに研修履歴に応じて、さらに上級コースの受講を継続して行っている。
- n. 職業教育・キャリア教育財団主催の研修会や全専各、埼専各等の会合に参加させ、新しい知識・技術、業界の動向等を学習している。また参加していない教員に対して、各種研修会参加者が研修の内容を伝達し情報共有するため、研修報告発表を定期実施している。さらに授業改善のための創意工夫を発表する研修会を夏季休業、冬季休業、学年末休業を利用し校内研修会を年3回実施している。

③課題と改善策

- ・職業人として、業界が望む人材像を正確かつタイムリーに把握し、知識・技術・ヒューマンスキルの各分野における学生の到達すべきレベルを明確にすることが重要であると考えている。そのため、各分野における項目別の学習項目を設定するとともに、目標に向けたカリキュラムの作成を行いさらなる改善を図ることを続けたい。
- ・到達目標に向けて、どのような進捗において学生が成長したのかを定量的に把握し、カリキュラムの実効性及び適合性を評価することが必要である。そのため、産学連携先企業を中心としたアドバイスに基づき「業界の求める人材像」を明確にし、求める人材像として習得すべき項目を整理した。これらの整理事項に基づき学修成果を段階的に測定する「総合力テスト」を作成した。総合力テストは、各学年前期・後期末に実施している。

④学校関係者評価委員会による評価

- ・g 授業評価の実施方法、評価体制の具体的な方法の記載がされていないので、行っている評価については年7回、毎月2週間、教員同士で見学・評価しているのであればその旨を書く
とよい。
- ・学生アンケートでは、カリキュラムに関する授業満足や授業を理解できているかに加えて、
全体として学生がこの学校で期待した通りの成果・学修ができているかどうかアンケート
するとよい。

(4) 学修成果

①採点

適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

	評価項目	評価
a	就職率の向上が図られているか	4
b	資格取得率の向上が図られているか	4
c	退学率の低減が図られているか	4
d	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
e	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4

②現状

- 就職担当のベテラン教員を配置し、企業へのアプローチを強めている。その成果として
校内企業説明会の実施のみならず、入学から就職までの一貫したアプローチを視野に入れ
た新たな形態の企業連携が生まれている。結果として、ほぼ100%という高い就職率を
実現している。
- 情報系資格のITパスポート試験においては、通常授業における座学講座を設置している。
また、基本情報技術者試験を目指す学生に向けてクラスを特定して受験対策授業を実施す
ると共に、一般学生向けに試験直前の夏季休暇及び春季休暇中に特別授業を実施している。
ビジネス系資格のサービス接遇・秘書検定・ビジネス実務マナー検定・Microsoft Office
Specialist などについて、積極的に資格取得を希望する学生に対して特別授業の形式で指
導を行っている。また、インターネットを利用するための適切な判断力と行動力を身に付
けることを目的とした iBut（インターネットベーシックユーザーテスト）試験は、学科
を問わず全学生に受験させ進級・卒業要件として重要な位置づけとしている。
- 平成29年度における退学者は、各種対策が功を奏し減少している。しかしながら今後、
大卒入学者の増加に伴って、修業年限内に就職を決定し退学を希望する学生も増えるもの
と見られる。この点は今後の課題として受け止めており、魅力ある学校を創ってゆくと共に、
入学選考時における選考内容にも配慮し本校で学び就職してゆく強い意思をもつ学生

を選抜する必要があると考えている。

- d. 卒業後も母校として訪ねてくる学生や、さまざまな相談に訪れる卒業生が少なくない。またこれらの学生には、大学に進学した学生も含まれている。卒業後も親身に学生と連絡をとり学生にアドバイスを与え続ける学校であることが広く在学生及び卒業生に認識されている。これは担任制による在学中の親身な学生指導と共に、各担当者による卒業生に関する追跡調査が綿密に行われていることが大きい。特に、卒業後においても基本情報技術者試験を受験する学生に関して、在学中に取得した午前試験免除合格資格の管理番号に対する問い合わせが例年になく多くなっている。
- e. 卒業後の学生との太いパイプにより、事後に改善すべき点に気付かされることも多い。就職した学生たちの評判などを企業から直接収集し改善すべき事項は直ちに検討し、日々の授業及びクラス運営に反映されている。当校学生は、就職先から高い評価を受け、後輩たちの就職実績向上にも寄与しているが、ごく一部の学生において日本での就労に関する意識が低い学生もおり、無断欠勤や早期の退職・転職などが若干生じている。そのため今後、キャリア教育科目の中でいくつかの事例を取り上げ、労働の意味や意識についての教育を行うことを考えている。

③課題と改善策

- ・実習講師派遣の増加など産業界との連携を強化し、魅力ある授業の実現と求められる人材育成に向けたカリキュラム開発及び運用を行っているところであるが、今後さらに積極的に連携先企業からの意見を取り入れ、確かな学修成果の実現に努力することが必要となる。また就職先の多様化するニーズに対応する目的での、個別技術の学習会などを開催し、学生の興味と企業におけるニーズに応じて行く必要がある。さらに卒業生が、就職先企業において、どのように評価されているかを測定し、実践的職業教育の実施内容に反映させる目的から、就職先企業の「当校出身者満足度アンケート」の実施が必要であると考えている。

④学校関係者評価委員会による評価

- ・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を図れるよう、就職先企業への「当校出身者満足度アンケート」は具現化する取り組みが必要ではないか。
- ・「退学」という表記にはドロップアウトと就職成就による退学とが含まれると思うので、区別して表示した方がよい。

(5) 学生支援

①採点

適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

	評価項目	評価
--	------	----

a	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
b	学生相談に関する体制は整備されているか	4
c	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
d	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
e	課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
f	学生の生活環境への支援は行われているか	4
g	保護者と適切に連携しているか	3
h	卒業生への支援体制はあるか	4
i	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
j	高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

②現状

- a. 学生の進路については、副校長・教頭・学科長・就職部長・学生指導担当・クラス担任による進路指導会議を定期的で開催し、個人別に進路指導方針を協議している。また、学年別による就職特別講座や就職面接対策講座を実施し、「履歴書の書き方」や「面接指導」等、就職の具体的活動方法はカリキュラムにおいても配慮し指導を徹底している。
- b. 学生相談については、学生指導担当を中心に教員同士で連携して取り組んでいる。クラス担任と補助担任を各1名配置した体制とし、各クラスの学生面談を充実させ、個別に状況を把握できるよう学生指導要録に記載している。
- c. 当校の年間学費は他校と比べ適正かつ割安な水準にあり、また、原則2回の分納も認めている。さらに学校独自の奨学金給付制度を設け、学生の経費負担の軽減を図っている。日本学生支援機構の奨学金を学生に周知を図っている。
- d. 定期健康診断を毎年5月に学校行事として確実に実施している。万が一、未受診者がいた場合には指定医療機関にて受診させている。また、再検査が必要な学生には再受診を実施している。
- e. 彩の国さいたま ICT コンテストや、その他留学生に関わるイベント等への参加への支援をおこなっている。また毎月アンケート調査を実施し、学生の課外活動の把握をおこなっている。特に留学生は資格外活動違反とならないよう担任や学生指導担当による指導を徹底している。
- f. 学生のアルバイト調査、遅刻・不登校の学生への住居訪問の実施等により、学生の生活が乱れ学習に影響が出ないように注意をはらっている。また、休日でも急用等が発生した場合の専用電話を設けて職員が対応できるよう配慮し、留学生が安心して学校生活を送れるようにしている。
- g. 不登校など、問題のある学生の保護者とは、適宜連絡をしている。
- h. 卒業生からの希望に応じ、個別に資格取得のためのフォローや再就職先の支援等、卒業後もフォローや指導を行っている。

- i. 社会人の学び直しの受入れとして、埼玉県の委託訓練としての長期高度人材育成コースを受託している。
- j. IT・Web 学科・ビジネスデザイン学科において職業実践専門課程の認定を受けたことに伴い、高校との連携を行なう体制の整備を図っている。

③課題と改善策

- ・心身の健康管理については、カウンセリング、キャリアコンサルティング等、対応可能な教員を養成する研修会に参加している。
- ・課外活動として、スポーツ大会やテーブルマナー講習などを実施し、人間関係やコミュニケーションスキルを養い、社会人に相応しい正しい振る舞いをしっかり身につけさせるようにしている。
- ・急病などの場合、外国人留学生においては病院及び受診科の選定に戸惑いと不安を抱える学生も多い。当校では学生から連絡を受けた場合や、学内で体調不良を訴えた学生について、病院まで付き添い手続きを行う支援を実施している。

④学校関係者評価委員会による評価

- ・学生への進路指導、生活指導とともに、健康管理についても定期健康診断だけでなく、病院への担任などが付き添い、カウンセリングで支援しているのは良い。外国で病気にかかった際に不安を抱いた留学生にとって心強いことだと思う。

(6) 教育環境

①採点

適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

	評価項目	評価
a	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
b	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
c	防災に対する体制は整備されているか	4

②現状

- a. 現状の学生数に適切な教育及び実習等を実施するための実習室、パソコン、ソフトウェアは十分に確保されている。また設備は、定期的に更新が行われている。
- b. インターンシップの内、短期間（2～3日程度）のものは、企業からの申し入れあるいは学校による調査に基づき、各々の学生の適性と希望により適宜実施の案内を行っている。また長期におよぶものは、仕事を通じて技術を学べるアルバイトを中心に案内を行ってい

る。また技術実習ができるアルバイトについては、産学連携先企業から紹介も受け、積極的に学生への案内を行っている。

- c. 教職員による消火訓練の実施、学生の避難訓練等を定期的実施している。また水・食糧等災害時備蓄品の確保を行っている。緊急連絡用 Mail の整備を行い、学生との緊急時の連絡も行えるようにしている。

③課題と改善策

- ・学生の質の向上に伴って実習授業の内容の変化が必然的に発生してくると予想している。授業の理解を深める判りやすい教材の提供と身近に学べる環境を提供する PC の導入と同時に Wi-Fi などのインフラ整備が必要となると考えている。
- ・防災対策は常日頃から意識を高めることと、訓練を行うことが重要であることから、計画的に対策を行っていきたい。また東日本大震災における記録映像などを教材として用いて、地震などの災害に対する知識の学習及び発生時に命を守るために何が必要かを授業の中で学生と共に議論している。

④学校関係者評価委員会による評価

- ・計画的に教育環境の整備が行われ、最新の設備での実習などができている。引き続き、インフラ整備も含めてフォローして行ってほしい。

(7) 学生の受入れ募集

①採点 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

	評価項目	評価
a	学生募集活動は適正に行われているか	4
b	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
c	学納金は妥当なものとなっているか	4

②現状

- a. 学生募集活動は、埼玉県学事課の指導及び埼玉県専修学校各種学校協会の申し合わせ事項を守り、個人情報取り扱いや入学願書受付期日等に留意し、適正に実施している。学校案内、募集要項等は、社会ニーズに合わせ毎年改定している。
- b. 高校や日本語学校あるいは進学説明会等において、学校案内や資料を用い最新の教育内容や教育成果を正確に伝えている。また、ホームページに Facebook をリンクさせ、学校行事、産学連携、就職活動等の動きをきめ細かくアップし、日々の教育活動を志願者、保護者、学校関係者等に発信している。入学説明会では、入学から卒業までの教育内容や成果の説明を行っている。また体験授業を重視した学生募集を行っており、その中で入学

後に受講できる実習教育の内容を明確に示している。

c. 入学金、授業料、施設設備費等の学納金は、他校と比較して適正かつ低廉である。

③課題と改善策

・日本留学 AWARDS 専門学校部門（東日本）を平成30年度も受賞し、平成28年度・29年度に続いて3年連続で受賞している。当該アワードは、日本語学校教員が自らの教え子たちを進学させたい学校を選ぶ賞であり、本校の卒業生のほぼ全員が、上場企業をはじめとした優良企業に就職している就職実績や教育における学修成果が認めれたとともに、適正な広報及び募集活動が評価を得ているものと考えている。本校の入試改革による結果として、入学が難しい専門学校という意識が日本語学校において生まれつつある。就職も出来、しっかりと技術を身に付けることができる学校という説明を丁寧にしてゆく必要があると考えている。体験授業を通じて本校での学習に興味を持つ学生が多く、今後も直接、受験生に訴求する体験授業を中心に、日本語学校における進学説明会などを積極的に行なっていきたい。

④学校関係者評価委員会による評価

・今年も含めて3年連続で日本留学 AWARDS を受賞したのは素晴らしい。受賞することが目的ではないが、学生の受け入れから、教育活動、学生指導、学修成果、就職実績など学校として、外部機関から高い評価を得られるよう引き続き努力してほしい。

(8) 財務

①採点

適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

	評価項目	評価
a	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
b	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
c	財務について会計監査が適正に行われているか	4
d	財務情報公開の体制整備はできているか	4

②現状

- 財務基盤は計画的に強化され、安定したものとなっている。その結果、負債比率、負債償還率は文部科学省の大学設置基準の財務基準をクリアしている。
- 予算、収支計画は無理のない実現可能な計画を策定しており、予算と実績間に大きな乖離は発生していない。
- 会計監査は、実務に精通した前事務局長を監事とし、監査を厳正かつ適正に実施している。
- 決算完了次第最新の財務情報をホームページ上に公開している。

③課題と改善策

- ・特になし

④特記事項

- ・情報公開については、学校法人単位での公開となっている。

⑤学校関係者評価委員会による評価

- ・過去の年度も含め、学園が安定的な財務状態なのは、とても素晴らしい。

(9) 法令等の遵守

①採点

適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

	評価項目	評価
a	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
b	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
c	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4
d	自己評価結果を公開しているか	4

②現状

- 「教職員必携」を教職員に配布して、法令や専修学校設置基準等の遵守を明記しており教職員研修会等の実施時にもその徹底を図っている。
- 個人情報保護方針にもとづき、各種対策の結果、個人情報漏えい事故は発生していない。また、マイナンバーの取扱については極めて厳格な対応を行っている。
- 自己評価については、学校長を委員長とする「学校評価委員会」が中心となり、文部科学省の「専修学校における学校評価ガイドライン（平成25年3月）に準拠し、毎年定期的実施している。自己評価結果は、関係教職員が問題点の改善に努めている。
- 学校自己評価報告書及び学校関係者評価報告書は、学校のホームページに掲載することにより公開している。

③課題と改善策

- ・個人情報保護対応については、常に取扱状況等を確認しながら、組織に緩みが出ないように対応していく。

④学校関係者評価委員会による評価

- ・法令順守について、学内研修会などで教職員に徹底されている。また適切に自己評価、学校

関係者評価が行われ、学校の財務状況も含め、学校の基本情報が公開されている。今後も継続してほしい。

(10) 社会貢献・地域貢献

①採点 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

	評価項目	評価
a	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
b	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
c	地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか	4

②現状

a. 新座市主催の生涯学習パソコン教室等、講師・施設の提供、企業・地方公共団体等と連携し、地域社会と関わりを持っている。

平成29年度は、前年度に引き続き新座警察署より依頼を受け、交通ボランティアを対象としたイベント「交通安全コンクール」に参加した。学校内での練習や教室でのリハーサルなどを得て、「第18回交通安全教育技能コンクール方面大会」のコンクール出場を果たした。

b. 毎月1回ボランティア活動として、学校から志木駅までの周辺道路を清掃する美化活動を実施している。その他、国内外での地震などが発生した場合等、募金活動を自発的に行っている。

c. 埼玉県職業能力開発による長期高度人材育成コース2年間の教育訓練をIT・Web学科にて受託している。

③課題と改善策

- ・道路周辺の美化活動を引き続き実施するとともに、学生が積極的に参加できるボランティア活動を促していきたい。
- ・交通安全ボランティアのコンクールなど、積極的に学生を参加させるなどしていきたい。

④学校関係者評価委員会による評価

- ・学生のボランティア活動として、新たに月一回周辺道路の清掃を始めて、地域に関わるのはよい取り組みだと思う。今後も積極的に地域貢献を行ってほしい。

(11) 国際交流

①採点

適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

	評価項目	評価
a	留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行われているか	4
b	留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	4
c	留学生の学習・生活指導について学内に適切な体制が整備されているか	4
d	学修成果が国内外で評価される取組を行っているか	3

②現状

- a. 留学生の受入れについては、留学生の在籍学校と信頼関係を構築し、日本語能力、基礎学力だけでなく出席率、適性、学費支弁能力等も加味した判定を行い、卒業後の進路を見据えた優秀な学生の募集に努めている。
- b. 受入れにあたり、パスポート、在留カード、卒業証明書、成績表等の出願書類をしっかりと確認するとともに、アルバイト状況、健康状態も把握し、入学後の在籍管理に問題が生じないように対応している。
- c. 留学生の学習・生活指導については、クラス担任と補助担任及び学生指導主事が互いに連携し、継続的な面談や日々の声かけ等で留学生とのコミュニケーションに努めている。また、毎週、担任会議において学生動向について幅広い情報の共有化を図っている。
- d. 学校ホームページを通じて、学修成果発表会・卒業制作発表会の様子を配信している。また各発表会において日本語学校の教員の皆様をご招待し、当校の教育成果と教育内容をご理解いただく機会としている。

③課題と改善策

- ・学修成果が国内外において評価される取組みについては、学校ホームページをより一層活用し、情報発信を強力に行なう必要がある。

④学校関係者評価委員会による評価

- ・学校ホームページで教育活動、学修成果をもっと公開してほしい。さらにホームページを多言語で掲載して、留学生とその保護者にも周知できるようにしてはどうか。言語変換技術は向上しているので言語変換サービスを試してみてもどうか。